



尼崎市立立花中学校

学校だより

令和5年2月号

強く生き、正しく考え、優しく関わる立中生

## 春の訪れを感じる

校長 岡本 修一

2月になりました、2月は1年の中でも短い月ですから、あっという間に逃げてしまうとも言われます。2月4日は「春が立つ」と書いて、春の始まりとされる「立春」と言われる日です。昔の暦では、この頃が1年の始まりであるとされていました。江戸時代頃からは、毎年2月4日の立春の前日を「節分」と言うようになったそうです。

節分の行事は、「鬼は外、福は内」大きな声で豆を撒き、歳の数より1つ多い数だけ豆を食べたり、邪気除けとして縄に柀(ひいらぎ)やイワシの頭を付けた物を門にかざるところもあります。季節の変わり目は邪気が入りやすいといわれ、それを除けるために豆まきをしたり、飾りつけたりしたのです。近年は、幸運を招く方角向いて黙って太巻きを丸かじりする風習も多くのご家庭でしているでしょう。こうした風習は、地域によって少し違いがあるようです。特に長い厳しい冬の後に来る春の穏やかな季節は、冬の長い厳しい暮らしをしている人たちにとっては昔から変わらない大きな喜びであり、その前の節分は春を迎えるために、昔からある大切な行事と言えます。節分に、子どもたちといっしょに、日本の伝統や文化、風習については是非お話しをしてあげてください。

暦の上では春とは言うものの、2月は1年間で最も寒い時期となりますが、学校では、生徒たちは落ち着いて学習に取り組んでいます。特に3年生は私立高等学校、公立学校推薦・特色選抜などの出願を終え、入学試験にむけて学習活動にも熱がはいっています。また、3学期はそれぞれの学年のまとめの学期です。学習や日々の生活を、しっかりやりとげ、次の学年へ、3年生は卒業後の進路先へ、確実にたすきをつなげていきましょう。

3月末には、この1年間に自分の頑張ったことを、ご家庭や地域の方々に伝えることができるでしょう。

### 【1. 17地震非難訓練を実施しました】

6434名が亡くなりになった阪神淡路大震災から28年がたちました。この地震災害のあと12年前に東日本大震災、6年前の熊本地震、鳥取地震、5年前には大阪北部地震、北海道地震で多くの被害にみまわれました。私たちは今、いつどこで地震が起こっても不思議ではない日本列島で生活しています。科学の発達とともに地震や津波の仕組みは解明されてきていますが、地震を止めることは人間の力ではできません。ですから、地震や火災が発生

したとき、一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という行動をとることです。1・17この日を忘れずに、避難訓練をくりかえして、いざというときに備えておかなければなりません。生徒の皆さんは今、こうして生きていることの幸せをしっかりと受け止めて、生きることができなかった人たちの分まで勉強し、立派に成長し、自然災害の多いこの日本の国を守って欲しいと願います。1月17日に、本校において地震避難訓練を実施しました。どの生徒たちも真剣に、運動場への地震避難訓練に取り組みました。訓練では次のことを確認しました。・机の下に隠れるときは、頭をかかす、机の脚をしっかりと押さえることが大切です。・出口の確保です。ドアや窓を開きます。誰でも良いです。避難経路を確保します。・先生の指示に従って、避難するときは「おはしも」の合い言葉です。「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」です。・火を使用している授業中では、身の安全を確保して、揺れが収まってから火を消し、ガスの元栓を止めます。地震、津波は、皆さんがどこで何をしているときに起こるかわかりません。いつ、どこにいても、自分がいるところからできるだけ近い避難経路で、安全な場所に、速やかに避難してください。ご家庭でも地域でも「そなえよつねに」で心がけをお願いします。



### 【新年行事、作品展等に参加しました】

新年1月に地域では地域総合センター上ノ島やアルカイクホール等において、新年の祝賀行事、成人式等が開催され、本校生徒も参加し、新しい年に期待をよせています。

また、市内の書写研究会主催の書道展と特別支援教育研究会主催のなかよし作品展が尼崎市総合文化センターにおいて開催され、本校生徒たちの学習成果も市民の皆様にご覧いただきました。

